

研究分野		授業科目名				科目責任者	
生理系分野		神経病態生理学Ⅱ特論Ⅰ・Ⅲ				八木田 佳樹	
開講年次		共通／専攻／選択		単位数			
1,2,3,4		特論Ⅰ：必須専攻, 特論Ⅲ：選択		特論Ⅰ：4(2/年), 特論Ⅲ：1/年			
目的							
脳卒中の病態や脳循環代謝の基礎を理解するために、当該分野の未解決課題（以下（１）～（５））について取り組む。 （１）脳血管内皮機能障害の分子機序 （２）脳虚血再灌流障害の有効な治療法 （３）rt-PAの副作用軽減法の開発 （４）脳卒中急性期の最適な血圧管理 （５）原因不明脳梗塞のマネージメント							
授業到達目標							
（１）文献検索などで、目的に沿った情報収集ができる。 （２）論文内容をわかりやすく発表あるいは紹介して討論できる。							
授業計画							
回数	月日	曜日	時間	担当者	区分1	区分2	授業内容
1	毎週	火	13:00-14:00	八木田 佳樹	講義	[抄読会]	抄読会で課題に関する論文を紹介し、討論する。 [場所:本館棟7階脳卒中医学実験室]
評価方法							
【特論Ⅰ】 （１）1年間※で、講義は30時間出席し、科目責任者から履修手帳に出席印をもらい、提出する。 （２）1年間※で、論文紹介または症例発表を2回行い、その要約2編を提出する。 【特論Ⅲ】 （１）1年間※で、講義は15時間出席し、科目責任者から履修手帳に出席印をもらい、提出する。 （２）1年間※で、論文紹介または症例発表を2回行い、その要約2編を提出する。 ただし、特論Ⅰ・Ⅱで紹介したものは異なる論文（症例）であること。 特論ⅠとⅢの同年度での重複受講は不可とする。 ※1～3年生は2月末まで、4年生は11月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。42・43頁：単位履修方法参照。							
課題（レポート等）に対するフィードバック							
発表時に、指導・助言を行う。							
教科書							
ISBN-9784525248512, 脳卒中病態学のススメ, 下畑 享良（編集）, 南山堂, 2018							
参考書							
ISBN-9784787822369, 必携脳卒中ハンドブック（改訂第3版）, 高嶋 修太郎, 伊藤 義彰（編集）, 診断と治療社, 2017							
準備学習（予習・復習等）							
関連分野の文献を読み、内容を簡潔に発表できるようにまとめておく。 発表後の質問について、回答とその根拠を復習し、まとめる。							
修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連							
卓越した研究成果をあげ、脳卒中学の深い学識を獲得する。							
注意事項・メッセージ							
毎回発表を担当するか、最低1回質問・コメントを行うこと。							